

がんばろう

南三陸町

復興第28号

南三陸マイタウン情報

月刊

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84

TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝



「震災の年の入学生卒業」

力強く逞しく三年間を過ごし未来へ

宮城県志津川高等学校の平成25年度「卒業証書授与式」が3月1日開催され、卒業生131名が被災地の混乱の3年間をを無事に過ごし巣立った。

情報ビジネス科第16回生26名を代表し、佐藤校長から「おめでとう」の言葉を送られ授与された。

普通科第66回生は、2組33名を代表し阿部想君が「第8928号」を、3組34名の代表は佐藤純君が「第8975号」、4組38名の代表は及川友太君が「第9002号」として、長い歴代の卒業生に名を連ねた。

佐藤充幸校長の式辞では、「この三年間語りつくせない苦労があった。」と被災の年に入学し、多くの混乱の中で高校生活を思い起こす。半月遅れの入学式、2校への分離授業となり、8月になって本校に戻ってきた。「不安と戸惑いの連続だった。」と。中学生から高校生になったばかりで、「多くの支援に感謝の意を忘れないでほしい」と述べ全国・世界そして地域の住民のみなさんの応援があったことを、卒業後も胸に抱いてと話した。

社会・大学に巣立つ生徒に、「小さな壁大きな壁も安易に逃げたりしないで、粘り強く初志貫徹してほしい」「未来に貢献する事、自分のためだけでなく、他人のために額に汗して下さい」と話し、「人の一生は重きを背負って・・・行くがごとし急ぐべからず」「不自由を常と思えば不足なし心に重き望みおこらば困窮な時を思い起こすべし」と二つのことわざを、はなむけの言葉として送った。

佐藤町長は、3年が過ぎても校庭には仮設が建っている。「全国全世界からの心温まるご支援、温かい声援に感謝の心を再確認させられた」、そして「大いに飛躍する事を期待します」と祝辞を述べた。

送辞には大坂君が「後輩の目標だった」と、行事の中でのクラスの結団



凛々しい姿の卒業生



佐藤校長

力を話した。「尊敬する先輩たちがいたから充実した学校生活を送れた」と言う。「志津川高校の伝統を引き継ぐ」と力強く語った。

答辞では及川友太君が、2011年3月11日震災の年、3年前の入学だったと振り返る。「津波の被害で、心にキズを負った人、不安な気持ちを持った人がいた」、「この3年間がかけがえのない時間だった」と言う。「あたり前の事がかけがえのない時間だった」「何よりも友達が大切だった」と学校生活があった事、「私を支えてくれた先生」「18年間私たちを支えてくれた家族」に「これからも見守って」と話し、「これからはほこりを胸に、努力し夢や希望に向かって行きます」と。最後に「志津川高校生活は何にも変えられない財産」と結んでくれた。

保護者代表謝辞では、3学年委員長の佐藤信一さんが、「復興への3年間」だったと話した。明日の見えない希望の日々と被災後の生活を過ごし、自分を見つめ、友だちを思い、励まし合い、社会人としての礎(いしずえ)を築いた。オリンピックで体操銅メダリストの亀山選手のメッセージとして、「世界を見つめ、世界に羽ばたいて欲しい」の言葉を伝えた。

阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件と、歴史に残る激動の年に生まれた卒業生、「支えられ、支え合い、必死に生きた3年間」、先生方への感謝の気持ちでいっぱいですと、涙ながらに話してくれた。また、今年は「創立90周年」にあたる事を伝えた。



父母が全員起立で先生方に感謝

入谷地区に新しく老人ホーム誕生へ

津波避難所に指定されていた、旧志津川中学校跡地(廻館)に「福祉の里」があった。町社会福祉協議会では、デイサービスセンターとのぞみ作業所を運営していた。その隣に「特別養護老人ホーム慈恵園(じけいえん)」があり、3.11の東日本大震災で被災した。そして4年を迎える今年、6月の工事完了、7月の入居予定で開園を進めている。

施設内容は、長期入所、短期入所の合計で70名を予定している。開園に合せ介護職20名を募集している。

現在は入谷山の神平で「福祉仮設」を、町から受託し運営を続けている。今後進む高齢化に伴う、高齢者の受け皿として、地域住民の生活支援として、福祉環境整備に貢献していく。(新設場所 入谷小学校裏童子下地内)

「慈恵園」

7月オープン予定



大好き志津川！ふるさと南三陸町で共に生きましよう

第46回仙北地区ピアノコンクール



平成26年2月11日 水の里ホール

2月11日は登米市水の里ホールで行われた、第46回「仙北地区ピアノコンクール」に行ってきました。

大会は登米市を中心に、石巻・大崎・南三陸から多くの幼小中のピアノ大好きの子供達が集まった。プログラムの発表予定数は、130名を超える申込者だが、参加者は100名と言う発表があり大雪の中を集まった。

そんな新春発表会に南三陸町からも、戸小・入小・志津川小・戸中の名前が、プログラムに載っていた、15%ぐらいが我が町からの参加を占めていた。E～A級までの入賞者の中には、D級で入谷小の三浦さんが最優秀となり、B級でも戸中の佐々木さんが最優秀を取り、大会の特別賞も受賞しました。南三陸町のピアノのレベルの高さに驚きました。



ピアノ教室の子どもたち

「遠藤ピアノ教室」では震災で五日町にあった教室や楽器の全てを流失し、子供たちの「先生に教えてもらいたい」の気持ちに、自

宅を改装し無償で子供たちにピアノを指導している。今回、被災しながらも頑張っている子供達を取材してくださいと依頼され、子供たちの活躍を見届けた。7人の参加で大部分が各クラスの賞に入った。B級では佐々木暁美さん(戸中1年)が最優秀賞と「蛭名賞」の特別賞に輝いた。D級では佐々木俊くん(戸小4年)が優秀賞に、小野詞誉くん(戸小4年)も賞を獲得し、生徒全員が大活躍をした。見守る家族の気持ちも発表までドキドキだった事と思う。

壇上に整列した入賞した子供達は、半分以上が南三陸町の子供達だった。子供たちの個人の活躍を南三陸町の仮設で暮らす町民の人達に、「子供たちが被災しても頑張っている姿を届けたい」と、遠藤先生は言う。発表の週の大雪の時も津山の仮設から、多くの時間を掛けて教室まで通い、コンクールでの高成績に結び付いた子どももいる。

島根県山陰地区浄土真宗本願宗派西本願寺「楽法会」

東日本大震災追悼供養会

(荒砥地区)

平成26年3月4日、東日本大震災の4年目を迎えるこの日、島根県山陰地区浄土真宗本願宗派西本願寺45歳までの団体「楽法会」が、縁があって繋がりができた荒砥地区において、今回若手僧侶11名が来町



し、「東日本大震災追悼供養会」を荒砥センターで開催した。

震災直後から荒砥地区に入り、復旧活動支援・物資支援などを続け、地域民との交流など3年目を迎えた節目にと追悼供養会を行った。団体会長は「遠藤水華里さんを通してこの地区とのご縁ができた」と挨拶で述べた。島根県と宮城県荒砥との被災者支援の交流は、島根の浄土真宗会派の被災地の報告会や被災者への心の支援、被災地の苦しみを癒す活動を、幾度となく来町し行った。交流は今後も続けていきたいと話す。

地域の高台のお寺隣りにあるセンターながら、「こん高さまで津波は押し寄せ、センターのガラスドアはベニア板で今も補修されたままだ。」危険区域でありセンターも移転すると区長は話していた。見下ろす荒砥地区では30軒が津波被害を受け更地となり、高台の造成は6戸で夏頃には土地の確保がされ、住宅再建がされる予定だ。

9時からの法要会には、浄土真宗の読経が11人の僧侶の方々により行われ、センターに響きわたり、参加した人は手を合わせ、亡くなられた方々を忍んでいた。

町の追悼式は3月11日の2時30分から、総合体育館で開催される。



被災した荒砥地区

新しい町づくりへ 復興へ加速

みなさんと笑顔の花を咲かせましょう

* 五日町の「三浦魚店」さんが南三陸町の志津川産の魚を仮設生活者へ車で販売

〔1.6河北新報の「これから大震災を生きる」114から〕被災し登米市での生活の中、二人三脚で魚屋を再開した。仮設の人たちに志津川のタコ・サケや地物の魚を販売し好評である。

市場へ仮設へと25kmを往復する。漁協関係者に仲買再開を進められたと言う。小さな販売車で知人を回る事から始まり、同郷の市場関係者も喜んでい

る。
(南方仮設でご主人がさばいた魚を、奥さんが仮設で生活する南三陸町の人たちへ、笑顔の姿を見ました。)

* 宮城県の中学生在が不登校全国最多に！

早期発見・早期対応を進め、震災被害の大きかった地域に、加配職員やカウンセラーを配置し、心のケアに配慮をしている。

* 阪神大震災の「1.17震災祈コンサート」に南三陸シンガーズ参加

震災に対する多くの支援に対し、復興の下支えをいただいた。市民500人と南三陸町のグループ15名が中継で参加した。「歌の力」が二つの被災地をつないだ。

* 被災地の人口流出止まらず

岩手県大槌町は現在1万1900人余りで、被災前より22%が減少した。流出は10代後半から30代前半が多い。流出歯止めに復興定住促進に重点を置き、IターンやUターンによる人口増加も図っていく。(南三陸町は昨年11月末で14683人で被災前より約20%減少している)

* 公立南三陸診療所に「レディース外来」1月10日から開設

「被災地の女性を支えたい」と青森県出身の中村医師が、月の第2・第4金曜日午前10時~午後3時まで診察をする。医師は気仙沼の老人施設に勤務している。(志津川病院には1999年に産婦人科医が退職して以来婦人科がない。)

* 気仙沼市長は医療費減免を再開検討へ

対象者の被災程度や所得を考慮し、国保財源の補填と医療費減免を要望。

* 利府町NPO法人が浜再生へ

NPO法人「利府の社」は利府町での水産加工活動の中で、障害者就労支援でワカメの処理作業で雇用を生み、新しい支援で浜の復活へ挑戦している。

* 南三陸町仕事始め 6 日

「町の復興事業は日本や世界の歴史に名を残す」と300人の職員に挨拶した。

* 志中で「志教育支援事業」の実施発表会(1月22日)

教育関係者、一般600名が来場した。志小の児童4人が夢作文を発表した。

* 気仙沼市に県議団と 3 回目の調査

職員不足の中で26年度には293人が必要と報告、防潮堤問題や、人口減対策も議論された。

* 宮城沿岸部の27小中学校、震災を知る教師がいなくなる？

3年目を迎え、教師の疲労蓄積もある。4分の3の異動となる見込み。

* 東陵 7 番小林 聖君(志中出身) 春の初陣

気仙沼に「号外」。左翼手 174cm 98キロ 右打右投 新2年生 試合は3日目23日第2試合で白鷗大足利高校と。

「南三陸に勇気と元気を」

* ウジェスーパー 26 年度後半 開店予定

3月予算定例会で情報を明らかにした。

従業員募集

緊急雇用支援事業も終盤です。地元で暮らす為の永い就職を考えましょう。

素直で
明るい方



パソコン(2級取得以上)

組版イラストレーターの指導します。自分のスキルアップで将来への技術の向上を！
急募します 時間の相談も受け付けます。

起業・経営者希望の方は是非ご相談ください。

体験もできます。一緒に働きましょう。

詳細は電話・面接にて

千葉印刷(株)・志津川広報センター

電話 (0226) **4 6 - 3 0 6 9**

小山書道教室

25年書初め大会 京都審査会場

戸倉小学校

2年	小	山	咲	花	—	5級	銅賞
3年	三	浦	和	佳	子	—	準二段
3年	佐	藤	真	樹	—	3級	銀賞
4年	佐	々	木	俊	—	1級	銀賞
5年	阿	部	巴	瑞	樹	—	準四段
5年	阿	部	美	幸	—	準四段	金賞
5年	小	林	汐	樹	—	準三段	金賞
5年	三	浦	志	穂	—	準二段	銀賞
5年	三	浦	孝	秀	—	準初段	銀賞

戸倉中学校

1年	小	山	明日	香	—	六段	観峰賞
1年	小	林	岬	太郎	—	準四段	金賞
1年	佐	々	木	曉	美	—	六段
1年	佐	々	木	龍	斗	—	準六段
2年	阿	部	成	美	—	七段	観峰賞
2年	小	山	七	海	—	七段	観峰賞
2年	小	山	美	里	—	五段	観峰賞
2年	金	野	流	華	—	六段	金賞
2年	西	條	柚	香	—	準八段	観峰賞
2年	三	浦	千	裕	—	六段	観峰賞

(参加報告から)

海花・東日本大震災復興の会

東松島の海岸線の新たな復興を 発展的な隣市町と共に海の活用も！

「海花・東日本復興の会」の二周年大会に行ってきた。発足当時からある知人を介して会に参加している。二年前は東松島市の方や岩手に入ったボランティアの人たちが、当時の被災地の現状報告があり、私も南三陸町の現状を伝えた。

この会の二周年大会には200名を超える方々、県会議員や市議会議員そして関係者が20名以上も来賓で出席されていた。副会長の挨拶に元気をもらい、講演では「閑上朝市」の組合長が、昨年暮れに全国からの支援により再建し、多くの来場者に感謝しないと話した。カナダよりの突然の1億を超える支援金に驚いたと言う。今後は支援金は「もういいです」と話し、「今までのように営業で商売競争に勝っていかないといけない」と、通常に戻る事が大切と話す。震災後に沿岸部の支援による商店街は、総てが営業不振や閉店に追い込まれている。誰かが経営に資金支援はもう終わりにして、自力で生きていく事の必要性を訴えていた。最後に「とにかく来てください」と話を結んだ。

心意気を被災地の商店主ならず、発揮しないといけない時期に来ている。

県会議員の海花の会会長が宮城県の震災復興の現状を話してくれた。1時間にも及ぶ話は、震災直後の米国の「友だち作戦」から「自己



被災地住民が多数集まる

志津川3地区戸建て希望の方々の顔合わせ間近か 店舗付き住宅・集会所を考える



東地区西工区開発予定

18日入谷公民館において6時30分から、町づくり協議会「高台移転部会」が開催された。始めに「南三陸町まちづくり情報センター」の整備が報告され、震災復興計概要・町づくり模型・震災から復旧のバーチャルリアリティーなどを置く。志津川高校美術部と行政が手掛ける。町の姿の模型が展示され目玉となりそうだ。

協議では「集会所の在り方」について、集まった6名により議論がなされた。参考の地区を写真の「東地区西工区」として、1.集会所の設備・運営 2.行政区についての二題を行政担当と委員の、質疑応答が1時間行われた。

現在の意向調査では戸建100世帯、災害公営が200世帯で、集会所の役割として、災害時に対応できる施設に、建物の設計も住民提案で、などが出された。行政は2~3年の集会所管理をし自治会(行政区)に引き継ぎたいと言う。行政区の区割りでは、行政の地図には災害公営と戸建地区に各一戸の集会所を地図に示していた。高齢者の多い災害公営と合わせて300世帯にすると、コミュニティで見守りができる。100世帯だと地区民をまとめるのにちょうど良い、他に東地区西工区を1行政区とし、班に分け自治会長を3名置くと管理しやすいとの話しも出た。地図の戸建と公営の今の配置計画では、「二つに三つに分けるのも難しい」など、志津川市街地の再建に向け活発に議論が今後も続く。



東地区西工区造成現場

4月には最後の委員会となる。5月には「総会」が予定され、今後の委員そして取組が話しあわれる。
(18日の高台部会の活動報告です、次号には半年間の活動を掲載します。千葉)

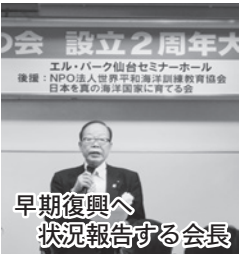
の体調」「復興報告」まで、延々と聴き続けても宮城の再構に欠かせない内容だった。

空母「ロナルド・レーガン」には、上陸艇4隻など18隻が搭載され、震災時に東日本震災で活躍した事や、4600人が乗船し1万1千食を毎日作っている。勿論病院等通常の生活ができる全てが整っている。そんな大型船を東松島に固定し、裏戸諸島の周辺を2020年の「海洋博覧会」の場所としてアピールする。そして海の素晴らしさの発信を宮城からしようと言う構想である。

また、震災時の救急車不足に「徳洲会」が支援をくれたと言う。今、問題になっている団体ながら、南三陸町にも徳洲会の服に身を包み、医療活動をしていた人たちがいた。徳洲会は被災した地区に救急車18台を支援し、そのうち5台が南三陸町に配備された。一番不足したのは「酸素マスク」で、津波による海水を飲み込んだせいで、肺が弱まった事への対処のマスクだった。会長は自ら糖尿病であると言う、透析患者の震災により透析治療が出来なく、近隣の市や県に患者が搬送された。自分は「腎臓移植」を済ませていたので、免疫抑制剤が無くて大変だったと話す。

県の問題として、「医師不足」「人口流出」を第一に上げる。それに対する対策を講じていると話す。県内に医大を一校新設への動き、住宅の早期確保を上げた。

外に出て色々な話に触れると、今起こっている我が町の現状に「やっぱり違う」と感じる。森副会長が第一声「みんなで一緒にやりましょう」と、声高らかに来場者に語った。こんなリーダーの出現を期待する。あらゆる復興へ取り組む「種まき」をしていく必要を感じる。



早期復興へ
状況報告する会長